

2022年度男女共同参画センターはあもにい
第1回運営審議会 議事録

1. 2022年7月13日(水)10:00～12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
 - ◆ 運営審議会委員(10名 五十音順)
井手志保委員 小野由起子委員 坂口京子委員 阪本恵子委員
那須円委員 本田恵介委員 松本充右委員 八幡彩子委員
欠席:北村眞理子委員 宮村飛伸委員
 - ◆ オブザーバー
熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課 課長 山田紀枝
 - ◆ 事務局
 - ・代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社 代表取締役)
欠席:太田勇雄(九州総合サービス株式会社 取締役部長)
 - ・構成企業B 松内隆典(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
欠席:河野正治(熊本産業文化振興株式会社 総務部長)
 - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミュージックプランニング 代表取締役)
館長:吉田稀世 副館長(兼 総務管理課課長):堀井康希
舞台事業課:課長 安藤陽介
維持管理課:課長 寺本祐矢
企画事業課:課長 内田美香、係長 田中美帆、山口美和、岡田佳子
総務管理課:係長 大久保章
4. 会次第及び議事内容
 - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (2) 館長あいさつ(館長 吉田稀世)
 - (3) 審議会委員および出席者紹介
 - (4) 審議
 - 議題1 はあもにい運営審議会規定の改定について
別紙:熊本市男女共同参画センターはあもにい運営審議会規定(案)
 - 議題2 はあもにい管理運営状況について

・会館運営状況報告

・質疑応答

議題3 令和3年度実施事業について

議題4 令和4年度事業方針、事業計画について

・質疑応答

5. 特記事項

・2022年度より松本充右委員が新たに就任。議事録の署名に関しては、井手委員、小野委員が推薦され、審議会承認となった。

・運営審議会事前資料 P3～P4差し替え

6. 議事録

議事進行:八幡委員

● 議題1 審議

(八幡委員)

質問・反対意見等ないため、運営審議会規定の改定については承認とする。

ただし、第8条(4)(5)(6)は(3)の削除に伴い番号を繰り上げる修正を行うこと。

● 議題2 質疑応答・審議

(本田委員)

利用者アンケート内「会館に対する意見」について、対応済みであるものや対応予定の情報を一般の利用者や市民がホームページ(HP)などで得ることはできるか？

(事務局 堀井)

アンケートの結果および対応状況は1階ロビーに掲示している。

(八幡委員)

HPというご意見があったが、他館の対応も踏まえどちらが望ましいといったことはあるか？

(本田委員)

すべてを掲載する必要はないと思うが、他の利用者も同様の意見を持っているかもしれない。HPにも掲載することで広く共有できるのではないか。

(八幡委員)

HPで情報発信することで会館の運営の姿勢が広く分かり、安心して利用できることにつながるのではないか。検討してほしい。

(那須委員)

アンケート等利用者からの意見で、特に要望が強かったもの、また、コロナ禍で要望が増えたと思

われる項目があったら教えていただきたい。

(事務局 堀井)

ネット環境に関する要望が多かった。共同企業体独自でも館内の無線 LAN の整備をしており、一昨年は、館内各所に有線 LAN の設備も配置した。全体においては通信環境が十分とはいえないため、今後検討していく必要がある。

(那須委員)

トイレの洋式化の要望もあるのではないか。市の施設内ではまだまだ対応が遅れている。市にも要望が出ていると思うが、引き続き検討願いたい。

(阪本委員)

貸室利用はどのような内容のものが多いのか知りたい。

(事務局 堀井)

ホール関係の利用内容については利用目的ごとにとりまとめを行っているが、貸室に関してはジャンル別の集計をとりまとめていない。今後の利用促進等を含めて必要な情報だと思うのでこれから集計に取り組んでいきたい。

(井手委員)

情報資料室の利用が増えているとのことだが、情報資料室には自習室はあるのか。

(事務局 堀井)

自習室はないが閲覧スペースがあり、コロナ以前は近隣に学校もあることから学生が勉強している姿を多く見かけた。ロビーの机でも朝早くから夜8時まで学生が勉強しているのが日常だったが、令和2年2月以降はエントランス利用も一部制限している状況。情報資料室に関しても、感染症対策で閲覧席の利用制限などあり、今のところ自習についてはご遠慮いただいている。

(井手委員)

昨年、学校に通っていた時に、図書館など自習ができる場所を探した。くまもと森都心プラザなどを利用していましたが、行列ができるほど利用希望があった。そうした目的でスペースの利用ができれば、利用者が増えたり認知度が増すのかなと思う。

(坂口委員)

利用者数の集計で「その他(学習室を含む)」の人数が多いが、その他とは何を含むのか。また、開館時間を早めてほしいという要望に、8時～22時半で対応しているという話だったが、その時間ずっと会館を開けていることができるという意味か。

(事務局 堀井)

まず、「その他(学習室を含む)」とは、学習室で実施する講座の参加者、支援グループ利用、フェスタの会議参加者などの数に加え、施設の利用の申し込み、ホールの打ち合わせ、下見に来た来館者などを概数としてカウントしている。

会館の延長に関しては、ホール・貸室利用者より希望申請があった場合に対応している。

(八幡委員)

コロナ以降、今年度は利用者も回復傾向にあると思うが、会館運営に関して特に注意をしていることはあるか。

(事務局堀井)

情報資料室、ロビーの自習や、はあもにいフェスタも含めて徐々に以前に戻すように運営していきたいと思っている。あわせて、感染症対策もしっかり継続していきたい。

● 議題3, 4 質疑応答・審議

(松本委員)

若年層への啓発で SNS の利用とあるが、はあもにいの HP にツイッターやインスタグラムのリンクが貼ってあればアクセスが多くなるのではないかと思う。特に若者はあまり活字媒体を読まない傾向にあるので、ツイッターなどすぐ読める SNS を活用して若者へ訴求していくとよいのではないか。

また、防災について、今年度は地域との取り組みをしていきたいということだが、本校と黒髪 12 町内で 10 月に防災運動会を企画している。大学の専門の先生、ルーテルの中学・高校の先生と黒髪地区 12 町内防災支援活動検討委員会を立ち上げた。特に 12 町内は年配の方が多く、熊本地震のときも避難の仕方が分からず、そのままアパートにとどまった方もいたとのことだった。防災訓練、避難訓練というと腰が重いが、中高生、大学生と一緒に運動会という形で避難等の練習をすることを企画しているので、はあもにいも同じ黒髪校区として協力していけたらと思った。

(本田委員)

審議会前に HP を拝見して、クマモト・ウーマン書籍版のページを見た。大学生と一緒に作ったものでとても良い取り組みだと思った。他の事業に関しても、若い人と一緒に取り組むといいのではないかと感じた。

指定事業、自主事業の説明があったが、今、国をあげて SDGs に取り組む流れがある。他の自治体、例えば横浜市の男女共同参画センターでは SDGs にからめた切り口で事業を取り上げている例もある。他県の情報やアイデアもぜひ取り入れていってはどうかなと感じた。

令和 4 年度の事業で、この事業はぜひ委員の方も参加してほしいというものがあれば教えてほしい。

(阪本委員)

たくさん講座があることにびっくりした。その中でも今の社会の課題に対する取り組みの講座があることは非常に心強いことだと思う。また、女性のキャリアアップについて、細やかに支援してもらえる講座が多くあること、これはもっと多くの方に知っていただきたい。

ウイメンズカレッジの目的の一つに女性審議委員の話が出たが、審議委員への登用、審議委員の若返りが必要なのではと思っている。社会全体が若返っていくこと、若者がさまざまな審議会

に入っていくことが、熊本市が大きくなっていく一つの原動力になるのではないか。最近少しずつ国際女性デーの認知が広まってきて、女性の中にも社会参画の意識が出てきたように思う。男性にも女性活躍・登用への理解を進めるためには、同じような講座に参加していただくのも重要なことだと感じた。

またDVの対策も若年層への働きかけは大事なことだと思う。

(小野委員)

限られたスタッフの中で、広い視野で多彩な取り組みをされていることに頭が下がる思い。

市民団体からの企画ということで目についたのが、「50歳からのわたし」という講座。自分自身が団塊ジュニア世代で、同世代間で少し前までは子育ての話が中心だったのに、最近は介護の話ばかり。一つの組織がすべての世代を網羅するのは難しいが、女性の問題を考える上で、高齢化、孤立化という問題は避けて通れないと思う。施設利用者も60代以上が多いということで、今後、若い世代や男性への視野を広げていくとともに、離れて暮らす子と一人暮らしの親との課題と支援など、高齢化に伴う家庭問題についてのような講座があるとニーズが高いのでは。「誰一人取り残さない」というテーマと「50歳からのわたし」という講座がすごくいいなと思っている。行政では、こうしたことは違うところの管轄なのか、はあもにいの管轄でできるのか。

(八幡委員)

今の話の中で、行政の取り組みについての質問があったが、今日は熊本市男女共同参画課の山田課長がお越しなので、一言お願いしたい。

(男女共同参画課 山田課長)

行政の中でもいろいろな部門があり、DVは男女共同参画課、性教育は他の部署が主にやっている。お互いに、小さいころからの教育が大事だということで、教育委員会、子ども関係、男女共同参画課など連携しながら事業を行っていきたいと考えている。

(八幡委員)

以前は市からも企業や地域に講師を派遣していたと思うが、今も行っているのか。ワークライフバランスや子育て支援などに関することなどだったと記憶しているが。

(男女共同参画課 山田課長)

講師派遣は今も行っている。また、デートDVやワークライフバランスなどの講座は、はあもにいとも連携をとりながら行っている。今回初めての取り組みになるが、大規模災害が起きた際に、性的マイノリティの方に対して避難所等でどのような対応や配慮を行うかといった職員向けの勉強会を、はあもにいと一緒を実施する計画がある。

また、現在ウィメンズカレッジの修了生が、熊本市の男女共同参画会議の審議委員となっている。熊本市の審議会全体の女性が少ない現状のため、市でもさらに力を入れている。

(那須委員)

内閣府が若年層を対象とする痴漢を含む性被害の実態調査を発表した。データでは回答した

中の 26%くらいが被害を受けたことがあると回答。非常に深刻な結果が出ている。

DV、デート DV などに加えて、若年層を含めた性暴力に対してどのような取り組みを進めていくことができるのか、問題意識、課題として位置付けする必要があると思う。はあもにいの重点項目に DV 防止啓発があるが、その中に性的暴力防止の啓発という位置付けも加えて取り組んでいく必要があるのではないか。講座内容の具体化は今からだと思うので、今年度間に合えばぜひ取り入れてほしいし、また来年度に向けての課題として認識していただきたい。

(八幡委員)

今年度、文部科学省も性暴力被害の問題の啓発ビデオを制作しているようだ。市で熊大の高岸准教授の話なども取り上げていただいているが、こうした専門家などの力も借りてみては。

(坂口委員)

はあもにい仕様書より(条例第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務)

「(3) 上記に掲げるもののほか、市長が特に必要と認めること」と記載があるが、これは提案して市長に認めていただいているのか、それとも行政との打ち合わせの中で「今年度はこれに重点を置いてくれ」と提案があるのか。時代がこの2年で変わっていているので、細かいサポートにおいて特化していく事業が必要になっていくのではないかと思います。

以前に情報誌はあもにいの編集員になったことがある。編集員として関わることで男女共同参画や社会のことに興味を持つきっかけになる。編集員の募集や市民団体のサポートが草の根活動として重要なことだと思っている。

ウイメンズカレッジの修了生が、任意団体ジェンカレッジの U30 対象のジェンカレ(ジェンダー平等な未来を拓くための次世代の学びの場)に参加しているという話があった。ジェンカレというものを初めて聞いたが、はあもにいで講座を受講した人が全国的な組織で勉強していくことはとてもいい流れだと思う。オンラインなので、熊本にいても参加できるのがメリット。ぜひ成果を持ち帰ってもらって報告会なども企画していただきたい。

ウイメンズカレッジでの審議会参加の促しは大事だと思うが、審議会の手前の社会活動、あるいはちょっとした疑問、小さな悩みもあると思う。追跡調査の回答率が 10%だということだったが、「今課題に思っていることは何ですか？」というように質問のハードルを低くし、社会活動参加の有無をアンケートしてみてはどうか。

最後に、今年度は九州・沖縄地区男女共同参画センター等会議の担当ということだが、一年に1回ではなく、もう少しスパンの短い情報提供交換の場を各センターで持てるよう提案してみるとよいのではと思う。

(井手委員)

令和4年度もボリュームのあるイベント、講座がたくさんあるようだ。

メンズカレッジがスタートするということでチラシをいただいた。「経営者・リーダー必見」とあり、男性の経営者向けということだが、できるだけ熊本市の経営者に参加してもらいたいのか。幹部候

補生や新人社員などではダメなのか。トップは忙しい。対象をもう少し絞ると参加しやすくなるのではないか。チラシの中で男性対象になっているが、男女混合のグループワークありとも書いてある。女性も参加できるのか。

(事務局 館長)

メンズカレッジは経営者、人事担当者、総務担当者に受講していただきたいと考えて企画している。ウィメンズカレッジで審議委員を目指す女性が、審議会に参加するにあたって、開催が平日で業務中だから出られないという声を聞いた。職場の理解、上司からの声かけがあれば参加しやすくなる。そうした決裁権のある立場の男性にも、このようなことを知ってほしいと思い、講座を企画した。ご指摘いただいたように、幹部候補生の参加の促しや企業として取り組みたいと声をかけていただけるように、より分かりやすい表現をしていきたい。

男女混合というのは、ウィメンズカレッジに参加の受講生とメンズカレッジの合同講座という意で記した。女性なら誰でも参加できるものではない。ちょっと表現が分かりにくかったと思う。メンズカレッジはまだ募集中なので、疑問点がないように周知を進めていきたい。

(八幡委員)

SDGsの視点をどう生かすのか。3期目に掲げている「誰一人取り残さない多様性の時代」という理念を踏まえ、こうした取り組みをどう拡散していくのか、情報発信力に期待したい。

女性も男性も、特に女性はすべてのライフステージを視野に入れて、例えば、50代、60代などライフステージに伴う困難を克服する取り組みなどにも配慮いただきたい。

また、メンズカレッジについて、男性のポジションによっても関心が違うのではないかという話もあるが、ひょっとしたらそのような視点はこれから女性がキャリアアップを果たす上で、女性側もそうしたニーズを抱えていくことになるのではないかと思う。メンズカレッジの持つ視点とウィメンズカレッジの持つ視点がうまくコンビネーションされていくことをこの第3期は期待したい。

ウィメンズカレッジの修了生のその後のフォローに関して、まずは社会活動について聞いてみてはという意見があった。今年は地域のリーダーを育てることもとても大事なことだと思う。

必由館高校では、制服がスカートとパンツを選べるようになったとのこと。徐々に教育現場も変わってきている。情報誌はあもにいなどの媒体があることはこのセンターの持ち味なので、それを生かして多様性と変革を発信してほしい。社会が変わってきている、また、人口が減ってきている中でも、熊本にはこんな多様な人材がいるよというような、地域を元気づける情報発信を期待している。第1期の終わりに熊本地震があり、第2期の終わりにコロナ禍になり、節目節目で発生した困難な課題を克服している。委員の皆さまのご意見を聞きながら、これから第3期の新しいはあもにいの活動がますます充実していくことを期待している。

(事務局 館長)

本田委員から質問がありましたお勧めの講座に関しては、メンズカレッジ、防災出前講座などをぜひ受講していただきたい。また、周囲の人たちと受講機会を計画していただけたらありがたい。

那須委員からお話のあった性暴力に関しては、なかなかアプローチが難しく、女性対象に向けての発信は、どうしても「身を守りなさい」というメッセージだけが強くなってしまふ。加害者になりうる人たちにどうアプローチしていくかということも踏まえて、今年度は性教育についての講座を保護者を対象に実施。「子どもたちが被害者にも加害者にもならない」という視点で性暴力について伝えることに取り組んでいく。ただ、ご指摘があったようにそれだけでは十分ではなく、深刻さを伝えていくためにも、次年度以降はさらに強化していきたい。

(坂口委員)

性暴力に関してもう一つ、RAFiT でも性教育の取り組みをしていきたいと考えている。中学生になってからでは遅いということで、小学校4～6年、また、低学年から性教育はした方がいいと聞いた。性教育の講座については、低学年、もしくは幼児親子参加として積極的に行うのはとても効果的だと思う。

それとアンケート回答に「33年間熊本にいて、はあもにいを知らなかった」とあった。一因として男女共同参画センターはあもにいという名前が長すぎるのではないか。男女共同参画から始まると硬い印象になってしまうので、はあもにいの下に、(男女共同参画センター)と小さく書くなど、はあもにいという文字の見せ方を大きくしたらどうか。それだけでも浸透が変わってくるのではないか。そうした工夫も考えてみてほしい。